

# サミュエル・フラー

連続上映!

スピルバーグ、コダール、ヴェンダース、ジャームツシュ、カウリスマキ、そしてスコセッシなど、世界中の監督たちに慕われたサミュエル・フラー。「アクション映画」「犯罪映画」「戦争映画」「西部劇」といったジャンルのルールを踏襲しつつ、しかし「サミュエル・フラー」としか言い得ない確固たる独自のジャンルを、フラーは作り上げた。犯罪事件記者でもあった彼の経歴がそうさせたのか。ハリウッドの背景に広がる夢の王国=アメリカの、深い陰影からこぼれ出た物語がそこにある。

●上映日程	14:40~	16:50~	19:00~
2/20 [土]	ショック集団	ストリート・オブ・ノー・リターン	チャイナ・ゲイト
2/21 [日]	チャイナ・ゲイト	ベートーヴェン通りの死んだ鳩	裸のキッス
2/22 [月]	ショック集団	チャイナ・ゲイト	裸のキッス
2/23 [火]	裸のキッス	ショック集団	チャイナ・ゲイト
2/24 [水]	チャイナ・ゲイト	ショック集団	裸のキッス
2/25 [木]	裸のキッス	チャイナ・ゲイト	ショック集団
2/26 [金]	ショック集団	チャイナ・ゲイト	裸のキッス
2/27 [土]	裸のキッス	ショック集団	チャイナ・ゲイト
2/28 [日]	チャイナ・ゲイト	裸のキッス	ショック集団
2/29 [月]	ショック集団	チャイナ・ゲイト	裸のキッス
3/1 [火]	裸のキッス	ショック集団	チャイナ・ゲイト
3/2 [水]	チャイナ・ゲイト	裸のキッス	ショック集団
3/3 [木]	ショック集団	チャイナ・ゲイト	裸のキッス
3/4 [金]	裸のキッス	ショック集団	チャイナ・ゲイト

【前売3回券】 3,600円

●イープラス、ファミリーマート、ユーロススペース窓口にて1月25日より発売 ●前売り券は3回券のみの発売となります。ご購入された3回券は、当日、劇場受付にて3回分のチケットと引き換えになります。お引換の上ご入場ください。満員の場合はご入場できない可能性があります ●イープラスでは、1月25日12:00より販売開始、2月19日23時59分にて販売終了となります。(http://eplus.jp/boid-sf/) ●ファミリーマートのFamiポートからも、上記の期間お求めいただけます

【当日券】 一般:1,500円/学生:1,300円  
会員・シニア:1,100円/高校生:800円

●全席自由席、各回入れ替え制、上映開始10分前からのご入場となります

**ユーロスペース**  
EUROSPACE

渋谷区円山町1-5 KINOHUA53F  
TEL: 03-3461-0211  
www.eurospace.co.jp



2月20日 [土]より  
2週間限定ロードショー

## サミュエル・フラー自伝

わたしはいかに書き、闘い、  
映画をつくってきたか

サミュエル・フラー、クリスタ・ラング・フラー、  
ジェローム・ヘンリー・ルーズ著 遠山純生訳

A5 判並製 / 784 ページ / 定価: 6,000 円 + 税  
ISBN: 978-4-86538-045-3

絶賛発売中!

www.boid-s.com



## チャイナ・ゲイト

China Gate

## ショック集団

Shock Corridor

## 裸のキッス

The Naked Kiss

## ストリート・オブ・ ノー・リターン

Street of No Return

## ベートーヴェン通りの 死んだ鳩

〈ディレクターズカット版〉

Tatort: Tote Taube in der Beethovenstraße

提供: マグネット・コミュニケーションズ MAGNET / 配給: boid

boid presents 『サミュエル・フラー自伝 私はいかに書き、闘い、映画を作ってきたか』 刊行記念

# サミュエル・フラー

連続上映!

史上もつとも過激なアクション映画と、  
もつとも前衛的な西部劇と、  
もつとも偉大な戦争映画を撮ったサミュエル・フラー。  
悔しいが、この男こそ映画そのものだと思えよう。

黒沢清

映画監督





## チャイナ・ゲイト 日本初公開

China Gate

1957年|アメリカ|97分|BW|シネマスコープ  
製作・脚本・監督:サミュエル・フラー/撮影:ジョセフ・P・イロップ/音楽:ヴィクター・ヤング 出演:ジーン・バリー、アンジー・ディッキンソン、ナット・キング・コールほか  
©1957 MELANGE PICTURES LLC. ALL RIGHTS RESERVED.



## ショック集団

Shock Corridor

1963年|アメリカ|101分|BW(パートカラー)|1.78:1  
製作・脚本・監督:サミュエル・フラー/撮影:スタンリー・コルテス/音楽:ポール・ダンラップ 出演:ピーター・ブレイク、コンスタンス・タワーズ、ジーン・エヴァンスほか  
©1964 F&F PRODUCTIONS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.



## 裸のキス

The Naked Kiss

1964年|アメリカ|91分|BW|1.78:1  
製作・脚本・監督:サミュエル・フラー/撮影:スタンリー・コルテス/音楽:ポール・ダンラップ 出演:コンスタンス・タワーズ、アンソニー・アイズリー、マイケル・ダンテほか  
©1964 F&F PRODUCTIONS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

第一次インドシナ戦争時の1954年。かつて朝鮮戦争で戦ったアメリカ人ブロックとゴールディは、今や傭兵としてインドシナでフランス外人部隊に所属していた。やがてブロック率いる破壊工作班が、敵地を潜り抜けて中国国境にあるベトミンの軍需品集積場を爆破しに行くことになる。彼らの案内役に雇われた欧亜混血女性リリアはもともとブロックの妻だったが、彼との間にもうけた息子共々捨てられていた。現在5歳となったこの息子が、東洋人的風貌の持ち主だったためである。案内役を果たす見返りとして、リリアは息子を合衆国へ避難させる約束を仏軍と交わしている。やがて一隊は、危険な任務を遂行すべく出発する……。

★この映画では、理解と寛容を訴えたかったのだ。さまざまな夫婦、さまざまな人間、さまざまな民族同士が共生してゆくために欠かすことのできない理解と寛容を……われわれの子どもたちが戦争などもう起こらない未来を過ごせるように、もっと思いやりのある世界規模の考え方をするのが、この地球という名の小さな惑星に生きる人々の責務である。

フラーの大ファンとして知られるジャン・リュック・ゴダールが、1965年度のベストテン映画の一本に挙げた神話的傑作。新聞記者ジョニー・バレットは、精神病院で起こった殺人事件を解明することで、手取り早くピューリッツァー賞を受賞しようと野心を燃やしている。彼は嫌がる恋人キャシーに無理矢理妹のふりをさせ、近親相姦的欲望を抱く性倒錯者を装って院内に潜入し、殺人を目撃した三人の患者に接近して下手人の正体を暴こうとする。その三人とは、共産主義者に洗脳された朝鮮戦争帰還兵、南部の大学で人種差別待遇を受けた黒人青年、原爆開発に寄与した天才科学者である。しかし周囲に感化されたジョニーは、やがてキャシーのことを本当に自分の妹だと思ひ込み始め……。

★劇中では精神障害、人種差別主義、愛国心、核戦争、性倒錯を扱っていた。こうした主題群を軽率に扱うことなど、できるはずがない。断固として観客を挑発してやりたかったのだ……この映画に登場する精神病院は、アメリカのメタファーであった。患者の腫瘍を見抜くX線のごとく、『ショック集団』はわが国の病にメスを入れるのだ。さまざまな問題を率直に診断することなくして、問題修復など望めまい。

『ショック集団』(63)に続いて同じ製作者の下で撮られた本作には、前作の主要スタッフがそのまま引き継がれている。横暴なヒモに反撃して大都会を逃げ出した売春婦のケリーが、グラントヴィルという名の小さな町にやって来る。ケリーは早速地元の警察署長を相手に“商売”をするが、そのとき署長は彼女に町を出てゆくように言う。しかしケリーはその警告に耳を貸さず、これまでの生き方を捨てて町の病院で肢体不自由児の世話をする看護師助手として働き始める。やがて彼女は、署長の親友で町の名士であるグラントと知り合い、恋に落ちる。だが夢のような交際期間を経ていよいよ結婚となったとき、ケリーはグラントの抱える恐るべき秘密を知ることになるのだった……。

★これまで世界中のいろいろな映画監督に、「裸のキス」の冒頭シークエンスには影響されましたよと言われた。そう言われると、いつだってご機嫌になる。だが当時、わたしはただケリーという人物を嘘偽りなく描きたいと思っていただけなのである。ひとつの真実を示したいという思いだけが、映画言語の拡張を促すこともあるのだ。

日本初公開となる待望の『チャイナ・ゲイト』、正常と狂気の境界が融解する『ショック集団』、そしてフラー作品の中でも異色作の『裸のキス』。どれもサミュエル・フラーの映画と言うしかない独自の風貌と、しかしあくまでもこれは絶対に映画であるこれこそが映画だと断言したくなる映画の強さを持った作品たち。誰もがどこかでこのような映画を作りたいと思っているにもかかわらず、フラーでしか実現できなかった正統的かつ歪んだ世界の姿に、わたしたちはここで直面することになる。さあ、目を大きく開いて、それを真正面から受け止めようではないか!

「ベートーヴェン通りの死んだ鳩」▶



## ストリート・オブ・ノー・リターン

Street of No Return

1989年|フランス=ポルトガル|93分|カラー|1.85:1  
監督:サミュエル・フラー/脚本:ジャック・プラル、サミュエル・フラー/撮影:ピエール=ウィリアム・グレン/音楽:カール=ハインツ・シェーファー 出演:キース・キャラダイン、ヴァレンティーナ・ヴァーガス、ビル・デュークほか



## ベートーヴェン通りの死んだ鳩

Tatort: Tote Taube in der Beethovenstraße

1972年|西ドイツ|123分|カラー|スタンダード  
監督:脚本:サミュエル・フラー/撮影:イェジー・リップマン/音楽:CAN 出演:グレン・コーベット、クリスタ・ラング、アントン・ディフリックほか  
Restored and funded by UCLA Film & Television Archive  
Tatort: Tote Taube in der Beethovenstraße (Bild: WDR)

1940年代から50年代にかけて活躍したパルプ・ノワール作家でフラーの友人でもあったデイヴィッド・ゲーティス(トリュフォーの『ピアニストを撃て』原作など)の同名小説(未邦訳)に基づく仏=葡合作映画。撮影はトリュフォーの『アメリカの夜』、ジャック・リヴェット『アウトワン』で知られるピエール=ウィリアム・グレン。キース・キャラダイン演じるマイケルは、人気絶頂の歌手時代、街を牛耳るエディの愛人セリアと恋に落ち喉を切られ、今はアル中のホームレスに。そのエディの画策で起きた黒人と白人の対立暴動のさなか、復讐の機会が訪れ……。「メロドラマとはアクションのあるドラマのこと」と語ったフラー。マイケルの唄を聞けるフラッシュバックや馬で駆けるシーン、暴動の迫力など、無国籍アクション映画の薫り立つ、その若さとエモーションに眩暈がする、劇場公開用映画としては最後の作品。

★デイヴィッド・ゲーティスとは友人だった、とプラルに話した。そして心のなかで、この映画を作れば、わが旧友にしてどうも作家を正しく評価する良い機会になるなと考えたのだった。デイヴィッドの小説を翻案する作業は実に楽しかった。あたかも彼が、肩越しにずっとこの作業を見守ってくれたかのようにであった。デイヴィッドも脚本の出来に満足してくれたらと思う。

約45年にわたって放映され続けているドイツの長寿テレビドラマ・シリーズ『犯行現場』の一挿話として製作されたもの。ただしフラーがオリジナル脚本を兼任したこの挿話は、一個の完全に独立した作品である。今回上映されるのは、従来劇場公開用に流通していた版より約25分長い123分のディレクターズカット版。アメリカ人の私立探偵が、ドイツのボンにあるベートーヴェン通りで射殺される。殺された探偵は、相棒サンディと共にあるアメリカ人政治家をめぐる恐喝事件(政治家と半裸のブロンド女が一緒に写っている写真が、ゆすりのネタ)を調査していた。サンディは、相棒の殺害と恐喝事件には何らかのつながりがあると確信している。彼は調査の途上で、例の写真に写っていたブロンド女クリスタと出会う。彼女はメンサーという男が率いる国際的恐喝組織の一員であった……。無国籍アクション映画の薫り立つ、その若さとエモーションに眩暈がする、劇場公開用映画としては最後の作品。

★『ベートーヴェン通りの死んだ鳩』は、始終どんちゃん騒ぎをしているような映画にしたかった。わたしは戦争映画やアクション映画を作ること期待される監督であった。喜劇、つまり純粋な娯楽映画を作ることとずっと夢見ていたのだ。その夢を実現するチャンスを手にしたのであった。(★は、すべて『サミュエル・フラー自伝』からの抜粋)